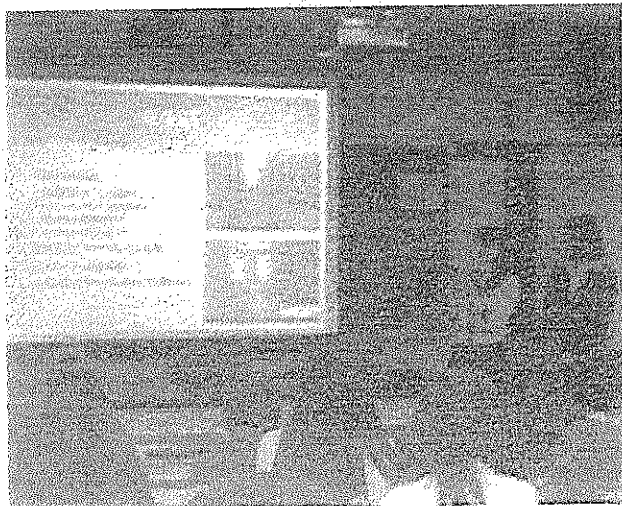


◆お茶の水女子大学◆

「若手研究者ITP」及び「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」帰国報告会

お茶の水女子大学では、日本学術振興会採択の「若手インターナショナル・トレーニング・プログラム(ITP)」委託事業「校風をつなぐ女性科学者の育成―第2のマリィ・キュリーをめざせ―(平成20年度採択)」及び「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」補助事業「国際水準の女性科学者の育成―お茶大型ホップ・ステップ・ジャンプモデル―(平成21年度採択)」が昨年度をもって終了し、プログラム全期間を通し、ITPでは78名、組織的な若手研究者等海外派遣プログラムでは91名、総計で約170名が留学を實現した。3月21日、4月8日の2日間で帰国者報告会が実施され、博士前期課程対象研修留学(ホップ)、博士後期課程対象研修留学(ステップ)、ポストドク対象研修留学(ジャンプ)のそれぞれの段階の派遣者が留学の成果を発表し、会場に集まった学内外関係者及び留学に関心のある学生等と活発な質疑応答を交わした。

事業終了後は、ITPの後継事業として、バーギシエ・ブツバタール大学(ドイツ)で英語による専門科目を受講する「研修留学」の派遣事業を継続することが決定しており、引き続きグローバルに活躍する女性科学者の育成を目指す。



研修留学グループによる発表